

FUJIFILM

Wako

Code No. 153-01361 (2 L 用)

アミノ酸自動分析用
OPA試液セット

内 容

1. OPA溶液 (*o*-フタルアルデヒド含量：0.14 w/v%)
.....500 mL × 2
2. 2-ME溶液 (2-メルカプトエタノール含量：0.4 v/v%)
.....500 mL × 2

保存条件：2～10℃ 保存

使用方法

使用時、OPA溶液と2-ME溶液を等容量混合してご使用下さい。
プロリン、ヒドロキシプロリン分析のため、次亜塩素酸ナトリウムを添加（市販の10%溶液をOPA試液1L当り1～10mL）して使用する場合も2-メルカプトエタノールをさらに追加する必要はありません。

ご使用上の注意

1. 混合OPA試液は冷蔵庫に保存し、1週間以内にご使用下さい。
2. プロリン、ヒドロキシプロリン分析のため、次亜塩素酸ナトリウムを加えた混合OPA試液はなるべくその日のうちにご使用下さい。（混合OPA試液と次亜塩素酸ナトリウム溶液を別々のポンプで送液する場合はこの限りではありません。）
3. 溶離液中のアンモニアが試料中のリシンやアンモニアの溶出される位置に台形状に溶出され、この部分のベースラインが高くなる事があります。
4. N₂ガスの導入の必要はありません。

試薬の経日変化

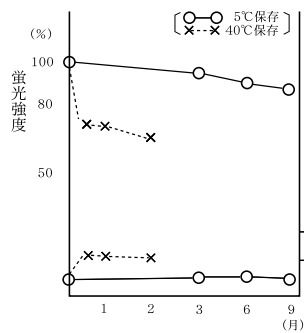


図1 調液前

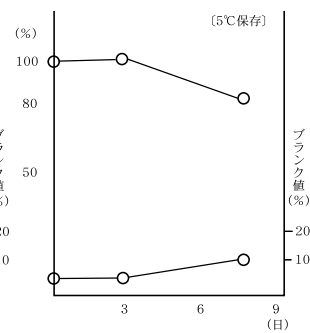


図2 調液後

(注) 図1は、二液を使用直前に混合して発色率を測定しています。

• 発色率の測定

混合OPA試液 10 mL に L-アラニン水溶液 (50 $\mu\text{g/mL}$) 20 μL 加えたときの蛍光を測定。

• 感度の調整

硫酸 キニーネ 0.5 ng/mL (0.05 mol/L 硫酸溶液) の蛍光強度が全目盛の74%になるように調整したときの値を示しています。

(Ex : 338 nm, Em : 425 nm)

参考文献

- 1) Simons, S. S. Jr. and Johnson, D. F. : *J. Org. Chem.*, **43**, 2886 (1978)
- 2) 寺部茂, 土谷昭浩, 安藤貞一 : 分析化学, **33**, 361 (1984)
- 3) 吉田久信, 今井日出夫 : タンパク質・ペプチドの高速液体クロマトグラフィー, p13 (1984) (化学同人)

製造発売元

富士フイルム 和光純薬株式会社
 大阪市中央区道修町三丁目1番2号
 Tel : 06-6203-3741

1801KA1